

シブノツナイ川水系河川整備基本方針

平成16年5月

北 海 道

シブノツナイ川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	1
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2 . 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分 に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅 に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項	5
(参考図)	
シブノツナイ川水系流域概要図	6

1 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

シブノツナイ川水系は、北海道北東部に位置し、^{もんべつ}紋別市、^{ゆうべつ}湧別町、^{かみゆうべつ}上湧別町にまたがり、その源を^{ゆうべつ}湧別町の低山地（標高316m）に発し、北東方向に流下しながら支川のシブノツナイ湖川と合流した後、シブノツナイ湖を経てオホーツク海に注いでいる。さらに支川の中ノ沢川もシブノツナイ湖に流入し、その後シブノツナイ湖を経てオホーツク海に注ぐ、流域面積は80.9Km²、幹川流路延長は15.4kmの二級河川である。

なお、河川名の由来は、一説によると、アイヌ語の「シュブノツナイ」（うぐい魚・多い・川）の意と言われている。

シブノツナイ川流域は、緩傾斜地で形成される山間部が約60%を占め、残りの40%は海岸沿いのシブノツナイ湖周辺を中心にシブノツナイ平野が広がり、丘陵地や平地では乳牛の放牧などが行われている。また、流域内にはオホーツク海岸沿いの市町村を結ぶ国道238号が横断しているなど、流域市町の社会・経済基盤を形成している。

(2) 治水の現況

シブノツナイ川水系の治水は、過去の局部的な河川改修により河道が直線化されたが河道断面が小さいため、豪雨などの際には氾濫し流域内に被害を与え、住民の生活を脅かし続けていた。特に昭和46年11月に発生した豪雨による浸水被害を契機として、昭和48年度からシブノツナイ湖合流部からの堤防の新設、河道の掘削などの河川改修を行い、平成元年度に国道^{しぶのつないばし}信部内橋までの区間を完成したが、昭和63年4月に発生した融雪による被害を契機に、平成2年度より^{しぶのつないばし}信部内橋より上流や支川中ノ沢川などの河川改修に着手している。

しかし、近年においても平成10年9月の豪雨により浸水家屋7戸の被害や国道冠水による交通遮断などの被害が発生し、さらに平成12年9月にも豪雨による浸水被害が連続して発生していることから、河川改修の進捗が急務となっている。

(3) 河川の利用の現況

河川水の利用については、水道用水として約0.01m³/sが取水されている。

また、シブノツナイ湖周辺では、しじみがい・わかさぎ・えび・こいの内水面漁業権が設定され水産業が営まれている。

河川利用としては、シブノツナイ湖において野鳥の観察や散策を楽しむ人、シブノツナイ川においては釣り人の姿を見ることが出来る。

(4) 流域の自然環境

流域内の土地利用は、山間部では国有林を主体とする山林、平坦地は畑・草地・牧場など農耕・牧畜に利用されている。流域の地質は、上流部は砂岩及び泥岩の互層が山岳地形を形成し、中流域の丘陵には礫岩、砂岩及び泥岩が緩い傾斜で分布する。下流部には礫、砂、粘土や泥炭層が分布している。

流域の気候については、年平均降水量は約850mmと道内の年平均降水量と比較しても少なく、年平均気温は約6℃と北海道内でも比較的冷涼な地域である。また、道内においても日照時間が長く、冬期間の積雪量は少ないなど、オホーツク海型気候としての特色をもち、1月末にはオホーツク海特有の流氷が接岸する。

シブノツナイ川の上流域は、山間地を急勾配で流下する山岳溪流の形態をなしている。河岸にはエゾイタヤ・シナノキ群落などの天然林からなる緑豊かな河畔林が繁茂し、河床の砂泥底にはシベリアヤツメ、緩流域を好むトミヨなどの魚類が確認されている。

シブノツナイ湖川を合流し、放牧地内を流下する中流域は、河道は河川改修により徐々に整備されている。河道沿いにはヤナギ類、ケヤマハンノキなどの河畔林が多く繁茂し、河床の砂泥底にはシベリアヤツメ、礫底の淵にはエゾウグイなどが確認されている。

シブノツナイ湖及び、シブノツナイ湖を経てオホーツク海に注ぐ下流域は、ヨシ・スゲ群落、カシワ・ミズナラ群落、シラカンバ群落などの河畔林が形成され、タライカヤナギ、エゾノミズタデ、ミクリなどが河道内に生育している。河道の流れはほとんどなく、停滞しているような湿地性水域に好んで生息するヤチウグイ、フクドジョウ、エゾホトケドジョウが多く見られ、海と湖が直結していることにより、産卵のために海から川へ遡上する回遊魚のマルタウグイ、ウグイ、カラフトマスなどの魚類が多くみられる。

また、シブノツナイ湖にはマガモ、コガモ、ムクドリ、ヒシクイ、ハヤブサ、オオワシ、アオサギなどの姿を見る事が出来、良好な動植物の生息・生育環境となっている。

水質については、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、平成14年の水質調査によると、シブノツナイ川はBOD値が0.5mg/l以下と環境基準のAA類型相当であり良好であるが、シブノツナイ湖においてはCOD値が11mg/lと環境基準のC類型を超えている。

(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害の発生状況、河川の利用状況ならびに河川環境の保全などを考慮し、また、関連地域の社会・経済情勢との調和や既存水利施設等の機能を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図るものとする。

災害の発生と防止又は軽減に関しては、沿川やシブノツナイ湖周辺地域を洪水から防御するため、河道の掘削などを行って河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図り、シブノツナイ湖においては湖岸堤の新設などにより安全な高さを確保するものとする。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水に対しては、迅速な対応が可能となるよう、水防管理者等の関係機関に対し河川情報等の伝達体制整備やハザードマップ作成の支援を行い、被害の軽減を図るものとする。

なお、支川区間については、本支川バランスを考慮し水系として一貫した河川整備を行うものとする。

河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持に関しては、水道用水として利用されている状況を踏まえ、関係機関との情報交換など連携を図りながら適正かつ合理的な水利用が図れるよう努めるとともに、シブノツナイ湖周辺は内水面漁業権が設定されていることから、漁業権漁業等に影響が無いよう配慮するものとする。

また、シブノツナイ川の現況の良好な動植物の生息・生育環境や水質環境に配慮しつつ、水環境の保全に努めるとともに地域住民と一体になった河川愛護を図るものとする。なお、シブノツナイ湖の現況の水質については、環境基準のC類型を超えていることから、今後とも継続的に調査を行い、関係部局との連携を図りながら、水質の把握等に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、シブノツナイ川及びシブノツナイ湖には多様な動植物の自然環境が形成されていることから、これら動植物の生息・生育環境に配慮し、良好な河川環境の保全と整備に努めるものとする。

なお、河川改修の実施にあたっては、地域の意見も踏まえつつ、治水と環境が調和した良好な河川環境となるよう努めるものとする。

河川の維持管理については、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全など、総合的な観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるため適切な実施に努めるものとする。

また、河川管理施設の機能の保持、治水上及び環境上の機能や影響を考慮した河畔林の保全、ふれあいの場の確保など総合的な観点から、適正な管理を行うものとする。

2 河川の整備の基本となるべき事項

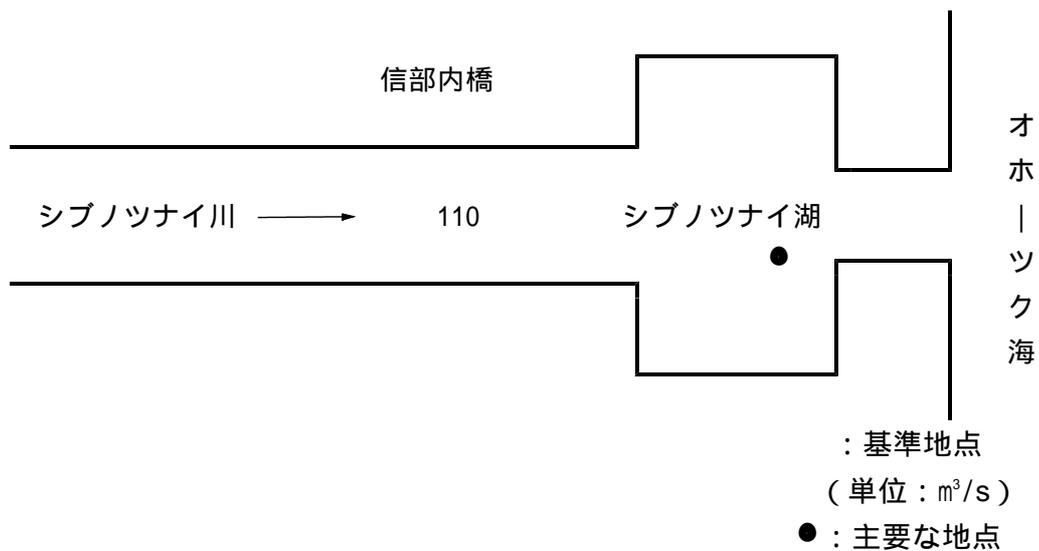
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、平成10年9月の洪水を考慮し、^{しぶのつないばし}信部内橋基準地点において110m³/sとする。

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
シブノツナイ川	信部内橋	110	-	110

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、信部内橋基準地点において110m³/sとする。



シブノツナイ川水系計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
シブノツナイ川	シブノツナイ湖	0.6	+2.11	-
"	信 部 内 橋	3.9	+5.58	55

(注) TP : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

シブノツナイ川水系の水利用としては、水道用水として約0.01m³/sの許可水利があり、過去に渇水被害等が生じた事例はない。また、魚類が豊富に生息しているなど良好な水環境を呈している。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の河川状況の把握を行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持などを考慮して定めるものとする。

シブノツナイ川水系流域概要図

